

独創性と技術力 高い評価

さまざまな野菜の洗

浄・皮むき機を製造販売する「エフ・イー」は、国が行っている「もりのづくり日本大賞」で12年に優秀賞に輝き、新機械振興賞協会会長賞なども数々と受賞している。独創性と優れた技術力が国内外から高く評価されている。

その名を全国区にしたのが02年開発の大根洗浄機。泥だらけの葉付き大根を入れ、5秒で傷を付けずにきれいにする。高圧水をかけてブラシを回転させ、水の膜を作ったその上を滑らせる構造で特許も取得した。社長の佐々木通彦さん(57)が札幌市内の農業機械メーカーで設計担当だった時から温めたアイデアだ。

父が創業した鉄工所は合板製造機などを作

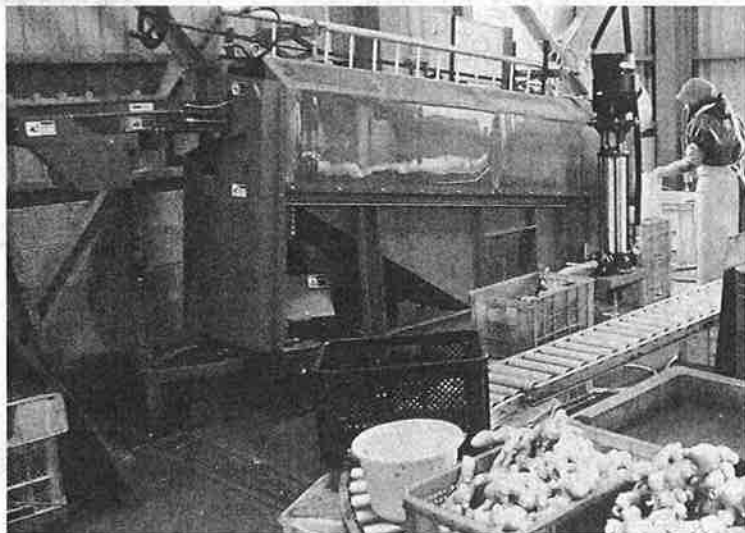
っていたが、輸入材の影響で仕事が減少。佐々木さんが83年に戻った時、会社にいたのは両親だけで、「看板と借金だけが残っている」と苦笑する。再建に向け、地域の基幹産業の一つ、農業に着目して機械分野に参入。冬場の仕事を確保するため、全国で年中作られている大根の洗浄機作りをまず選んだ。商品化後も構造を簡単にして価格を抑え、壊れにくさと整備のしやすさも追求。佐々木さんが目指す「simple is best」を体現した。導入した青森県の農家が東京へ出荷したきれいな葉付き大根が評判を呼び、国内外で400台以上を売る大ヒットとなった。中には加工用から付加価値の高い生食用栽培に転換する産地も。「いいものを作れば受け入れてくれる市場はある。機械が産地をつくる」と佐々木さんは言う。

現場の要望に沿った製品開発がモットー。ジャガイモなど規格外の根菜を有効活用するため、穴の開いたドラムを高速回転させる自動皮むき装置を開発。形が複雑で機械化が困難とされていたショウガやウコンなどの異形根菜類の洗浄機も注目されている。洗浄・皮むき機は現在、売り上げの6〜7割に達する。アジアを中心に海外への輸出にも意欲的だ。出荷前に野菜を洗浄することで、消費地に大量の土が運ばれるのを防ぎ、環境保全に貢献することも狙っている佐々木さん。最大の強みは、試行錯誤で蓄積したノウハウだ。「我が社の機械は方程式ではなく、経験値でできている」と自信をみせている。【横田信行】

大根洗浄機で全国区に



エフ・イー 事業所は旭川市工業団地3の2。1959年、佐々木鉄工所を創業。91年、市内の同業者と合併し、鉄の元素記号「Fe」にちなんで社名を変更。売上高5億7000万円(12年3月期)。従業員30人。



ショウガなど形が複雑で大きさが不ぞろいでも、独自の技術で回転させてきれいに洗える異形根菜類自動洗浄機—エフ・イー提供